

## 音楽に想いをのせて

海南省立下津第二中学校 3年 森 下 杏 美

その演奏を聴いたとき、心が躍った。感動で胸が張り裂けそうになった。演奏終了後、会場いっぱいにあふれる拍手の中で、演奏を聴いて涙している人もいた。「音楽の力ってすごい。」私の胸は熱くなった。

これは、小学校4年生だった私が、下津第二中学校音楽部の演奏を聴いたときのことだ。舞台の上のお兄ちゃんやお姉ちゃんはとてがかっこよく、輝いて見えた。そして、私もいつか下津第二中学校音楽部の一員として、聴いている人を感動させられるような演奏をしてみたいと思った。

翌年、私は小学校の金管バンドに参加し、本格的に音楽を始めた。そして、6年生。来年はいよいよ憧れた下津第二中学校音楽部に入部し、先輩たちとにぎやかに演奏ができると、期待に胸を膨らませた。

小学校を卒業し、私は下津第二中学校に入学した。部活動はもちろん、音楽部。それ以外は考えられなかった。しかし、私が入部したとき、部員はたった4名で、新入部員は私一人だけだった。総勢5名。今まで思い描いていたにぎやかな音楽部からは想像もできないくらい寂しい人数だった。それでも、先輩たちは私に優しく接してくれ、練習はとても楽しく、充実していた。人数は少なくても、ここは私が憧れた下津第二中学校音楽部。ここで、精一杯自分の音楽を奏でていこうと決意した。

一昨年の夏、3年生の先輩3人が引退し、部員は私と2年生の先輩一人の2人になった。2年生になった春、新入生は誰も音楽部に入部しなかった。そして、昨年の夏、たった一人の先輩が引退し、ついに、下津第二中学校音楽部員は私一人になった。

放課後、誰もいない音楽室。私一人のアルトサックスの音が寂しく響く。たった一人で、黙々と練習する日々が続いた。そんな毎日、不安で寂しかった。辛

かった。「本当に寂しい。もう一人では無理。音楽部を辞めよう。音楽を諦めよう。」涙と共に、やり場のない感情が込み上げてきた。

そんなとき、声をかけてくれたのは、音楽部の顧問の先生や、引退した先輩たちだった。先生は私に熱心な指導をしながら、いつもそばで励ましてくれた。先輩たちはときどき音楽室に足を運んでは、私の練習にとことんまで付き合ってくれた。そして、「部員は一人だけど、私は決して一人ではない。音楽を通してたくさんの人たちとつながっている。」ということに気づいた。それからは、「寂しかった放課後の音楽室」は、私にとって、「音楽を通してつながった大好きな人たちとの絆を紡ぐ大切な場所」となった。

その後、私は精力的に練習に打ち込み、海南市内4校による合同演奏会では、ソロパートを担当させてもらった。ソロパートは緊張で足が震えたが、私を支えてくれた先生、先輩たちを思い出し、感謝の想いを音楽にのせ、全力で吹ききることができた。私をずっと温かく見守っていてくれた両親も、笑顔で拍手を送ってくれた。「音楽を、下津第二中学校音楽部を辞めなくてよかった。」胸が熱くなり、自然と涙があふれた。

この4月、私は3年生になり、1年生が6人も入部してくれた。笑い声があふれる、活気のある音楽室が戻ってきた。とてもうれしく、先輩として、音楽部部长として、身の引き締まる思いである。

下津第二中学校は、2年後に統合される予定であり、音楽部の歴史もあと少しで幕を閉じることになる。だからこそ、私が大好きな下津第二中学校音楽部の伝統やすばらしさを、最後を担う後輩たちに惜しみなく伝えていきたい。また、私が周りの人たちに支えられたように、後輩たちをしっかりと支えていきたい。そして、支えてくれた人たちへの感謝の想いや仲間と共に演奏できる喜びを、心を込めて奏でる音楽にのせて、聴きに来てくれた人たちの心に届けていきたい。